

キャンプでの感動体験が児童の自己効力感に及ぼす影響

竹上 奨 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 中野友博

キーワード：キャンプ，感動体験，自己効力感

1. 序論

近年、子どもたちの自立心や思いやりなどの欠如が社会問題となってきた。齊藤らは、生活体験、社会体験、自然体験などが不足し「感動の希薄化」につながっていることを指摘している⁴⁾。筆者は、スポーツでの達成感に「感動」を覚え、何かの壁に当たるたび挑戦の活力になり、人間的成長が出来たと考える。戸梶 (2004) は、思春期から青年期前半にかけての感動体験は自己効力感を高めると述べている⁵⁾。

そこで本研究ではキャンプでの感動体験が児童の自己効力感に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

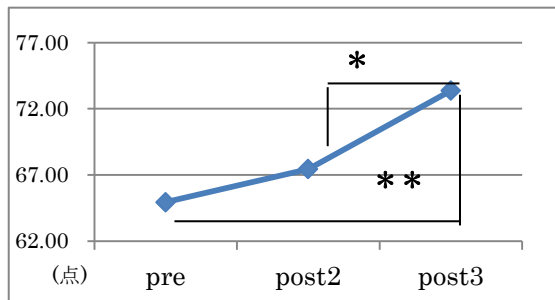
【対象者】平成 28 年 8 月 15 日から 8 月 23 日 8 泊 9 日の NPO 法人 F 森の学校が主催する「あまみネイチャーキャンプ」に参加した小学生男子 10 名、女子 6 名の計 16 名を対象とした。

【調査内容】参加者の自己効力感を測定するために飯田 (1992) らが作成した児童用一般性セルフ・エフィカシー尺度¹⁾と成田 (1995) らが作成した特性的自己効力感²⁾の 2 因子「忍耐強さ」「対人関係形成」を加えた 5 因子 20 項目を使用した。感動体験を測定するために佐伯ら (2006) が作成した感動体験尺度³⁾を自然体験用に筆者が修正した調査用紙を使用した。

【調査時期】自己効力感は、キャンプ直前 (pre) キャンプ振り返り後 (post2) キャンプ終了 1 ヶ月後 (post3) に回答を求めた。感動体験は、カヤックツアー終了後 (post1) キャンプ振り返り後 (post2) キャンプ終了 1 か月後 (post3) に回答を求めた。

3. 結果と考察

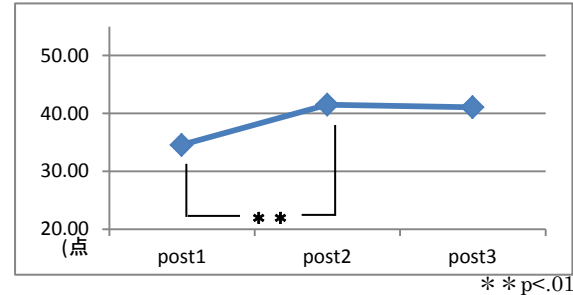
1) 参加者の自己効力感得点は、post2-post3 間において 5%水準で有意な差 ($Z=-1.97, p<.05$) が見られた。キャンプの達成感から、不安やストレスがなくなり自身の成功体験が自信になり、自己効力感が向上したと考えられる。pre-post3 間においても 1%水準で有意な差 ($Z=-2.61, p<.01$) が見られた。普段の生活では体験できないことを体験しそれをやり遂げたことが自信になり自己効力感得点に影響したのではないかと考えられる。



**p<.01 *p<.05

図 1 自己効力感得点の平均値の変化

2) 参加者の感動体験得点は、post1-post2 に有意な変化 ($Z=-2.81, p<.01$) が見られた。カヤックツアーでの困難を乗り越えた達成感が強く感動を喚起させ感動体験の得点は向上したと考えられる。



**p<.01

図 2 感動体験得点の平均値の変化

3) 感動体験と自己効力感の関連性は、感動体験と自己効力感の間に post3 ($r=.666, p<.01$) で高い正の相関が見られた。体験したことのないことを経験し、得る達成感や見たことがない物や景色を見て感動することが動機づけに変わり自己効力感を向上させると考えられる。

表 1 感動体験と自己効力感の相関分析の結果

N=16	相関係数 (r)
感動体験post2-自己効力感post2	n.s
感動体験post3-自己効力感post3	.666**

**p<.01

4. まとめ

本研究では、以下のことが明らかになった。児童の自己効力感得点は、pre-post3 間に有意に向上した。post2-post3 間においても有意に向上した。感動体験得点は post1-post2 間に有意に向上した。キャンプにおける感動体験と自己効力感の関連は post3 に正の相関が認められた。今後の課題として今回使用した感動体験尺度はキャンプでの「感動」を特定するものではなかったためキャンプにおける「感動」を特定して行う必要がある。

5. 引用・参考文献

- 1) 飯田 稔・関根章文 (1992) キャンプ経験が児童の一般性自己効力感に及ぼす影響, 体育科学系紀要, 第 15 号, pp93-102
- 2) 成田健一・下仲順子・中里克治・河合千恵子・佐藤眞一・長田由紀子 (1995) 特性的自己効力感尺度の検討 - 生涯発達の利用の可能性を探る -, 教育心理学研究, 第 43 巻第 3 号, pp306-314
- 3) 佐伯怜香・新名康平・服部恭子・三浦佳世 (2006) 児童期の感動体験が自己効力感・自己肯定意識に及ぼす影響, 心理学研究, vol.7, pp181-192
- 4) 斎藤哲郎・藤原昌樹 (2003) 子どもたちの地域活動や感動体験等に関する調査研究, 川村学園女子大学研究紀要, 第 14 巻第 1 号, pp153-176
- 5) 戸梶亜紀彦 (2004) 「感動」体験の効果について - 人が変化するメカニズム -, 広島大学マネジメント研究, 第 4 号, pp27-37